

株式会社廣澤精機製作所

代表取締役社長 柴田 清之 氏
専務取締役 仲田 清 氏
常務取締役 大場 明男 氏



茨城県つくば市に本社を構える株式会社廣澤精機製作所は、1947年(昭和22年)に設立後、精密金属プレス加工などの事業を展開しています。「協力こそ共栄の道」という企業理念を掲げ、全国10か所の事業所と約1,100人の従業員を率いる柴田社長の熱い想いをお聞かせいただきました。



企業概要

本社：茨城県つくば市寺具1331-1
設立：1947年(昭和22年)5月30日
従業員数：約1,100名
事業内容：
・精密金属プレス加工、板金加工、溶接加工、切削加工
・プラスチック成形加工
・冷却ファンモーター設計・製造・販売
・高速道路防音板・吸音板設計製造販売
・極薄肉溶接ステンレスパイプ製造販売
・精密プレス金型設計製造

インタビュー日：2021年9月24日
[聞き手：筑波総研(株) 代表取締役社長 野口稔夫]
[写真・編集：筑波総研(株) 主任研究員 富山かなえ]
取引支店：(株)筑波銀行 筑西支店、たかさい支店

貴社が歩まれてきた歴史をお聞かせください。

■ 設立74年、精密金属加工のパイオニア

弊社は、1939年（昭和14年）に、東京都内で各種精密ネジの製造を始めました。

その後、1947年（昭和22年）に株式会社育良精機製作所を設立し、1968年（昭和43年）に岩瀬町（現桜川市）に茨城工場を新設しました。



社の歴史を語る柴田社長（左）、仲田専務（中央）、大場常務（右）

1977年（昭和52年）、広沢製作所（当時）の社長であった廣澤清氏が2代目の社長に就任し、弊社は広沢グループの一員となりました。

1990年（平成2年）、下館市（現筑西市）に本社工場を新設し、本社も移転しました。2014年（平成26年）3月には株式会社廣澤精機製作所に社名を変更し、同年4月に株式会社広沢製作所と事業を統合しました。

そして、2017年（平成29年）9月、私は4代目の社長に就任しました。

現在の主力事業や貴社の製造品がどのような製品に使われているのかお聞かせください。

■ アイテム数は1万種類、幅広い業種に対応

現在、弊社は量産品に対応する精密金属プレス加工と多品種少量生産に適した精密板金加工による精密金属部品を中心に、極薄肉溶接ステンレスパイプ、プラスチック射出成形部品、冷却用ファンモーター、高速道路や鉄道の防音板・透光板などの製造・販売を行っています。

精密金属部品の製造では、主に精密プレス加工、精密板金加工、切削加工、精密金型設計製作などを行っています。これらの製品は、主にオフィス向け複合機などのOA機器、オフィス家具、白物家電製品、クレーン・メダルゲームなどのアミューズメント関連機器、工作機械、産業用ロボット、トラクターや田植え機などの農業用機械、自動車部品、蓄電関連機器などに使われています。

また、自動車用マフラー、建築用ステンレスパイプの製造、家電製品、住宅設備、自動車に使われるプラスチック射出成形の部品、高速道路の都市景観・交通騒音の環境改善に利用される防音板や透光板、コンピューター・OA機器・配電盤・制御機器・大型電源装置などの装置の冷却に使われるファンモーターなども製造しています。

様々な分野で約1万種類にもおよぶアイテムを取り扱っておりますが、すべての製品に対して、高精度・高品質の仕上がりをお約束しています。

それを可能にするのは、弊社独自の加工技術やノウハウ、柔軟かつ迅速に対応できる組織力です。そして、ここまで幅広い業種に対応できる能力を備えた企業は、他に無いと自負しています。



つくば本社・筑波工場（左：大型プレスロボットライン、右：自動旋盤ライン）



試作・板金部門

貴社の事業の「強み」をお聞かせください。

■「総合力」を活かし、お客様は“手間いらず”

これまで弊社は、最新鋭の設備と卓越した技術力で、お客様のご要望に柔軟かつ迅速に対応し、様々な部品開発を実現してきました。弊社には、精密金型製作から精密プレス加工、精密板金加工、切削加工、溶接加工、製品組立までの全加工工程を一つの企業で完結できる「総合力」があり、これこそが弊社の強みであると考えています。

その一方で、時代の流れとともに、金属加工の技術も大きく変化しています。「量産品から小ロットで多品種加工へ」という変化にはじまり、「特殊精密加工の少量生産」「試作品から製品への加工移行時におけるプレス・板金加工や精密金型・切削加工の併用」など、加工の用途により、以前よりも高い技術が要求されるようになってきました。

こうした変化にも「総合力」で対応します。例えば「製品図面一枚で、部品加工から組立、検査、梱包までを一気通貫で行う」といった、お客様にとって“手間いらず”の便利さをご提供しています。

■ 全社的な対応で最善策を追求

弊社の強みである「総合力」をさらに強化するため、各部門において新規設備の導入や技術開発に注力するとともに、部門間で定期的に情報交換を行うことにより、全社的にどのような対応を行うことが最善策であるかを常に追求しています。

また、従業員の確かな技術力と意識の向上を図るため、社外研修や見学の機会を多く持つほか、最先端技術や市場の動向などを常に確認し、周知しています。

さらに、多能工で視野の広い技術者を育成するため、部門間の人的交流やコミュニケーションにも力を入れています。

今後もお客様からの多岐にわたるご要望に合致した加工工程を的確・迅速に提案できる営業体制の強化を図ることで、お客様が求めるQCD[※]を叶えていきたいと考えています。

そのためにも、弊社が創業以来、蓄積してきた技術と最新の技術を掛け合わせて、競合他社と差別化できる固有技術の形成に向け、日々探求していききたいと思います。

災害が発生した際、事業運営が困難になった場合の対応策についてお聞かせください。

■ 企業理念「協力こそ共栄の道」で対応

弊社のBCP（Business Continuity Plan：事業継続計画）対策として、主力事業のプレス・板金金属加工の代替生産が可能な体制を、7つの事業所に整備しています。

災害などが発生した際は、弊社のグループ企業や他事業所、外注先などの関係協力先と、その時に「お受けできる仕事」と「お受けできかねる仕事」の洗い出しを行った上で、それぞれにお願いする仕事を決定します。

そのうえで、対応できない仕事に関しては、お客様とどのようにするかを協議し判断します。それと並行して、災害にあった事業所の復旧作業を行い、1日も早い復旧を目指します。

なお、会社のシステムに関しては、多くの情報がクラウド上で管理されているため、電気などのインフラ設備が機能していれば、業務に支障が出ることはありません。

これらのことはすべて、当広沢グループの企業理念である「協力こそ共栄の道」にも繋がるものです。これまで、各グループ企業が丸となって協力し合ってきたからこそ、今日の広沢グループ、そして、弊社の発展が感じています。



油圧プレス作業の様子

※ QCD：Quality（品質）、Cost（費用）、Delivery（納期）の頭文字を取った言葉

全国10事業所の運営状況をどのように把握・管理されているのかお聞かせください。

■ 全国10事業所の状況を毎日確認

当社は、つくば本社・筑波工場（茨城県つくば市）、玉戸工場（茨城県筑西市）、小山工場（栃木県小山市）、上野原工場（山梨県上野原市）、新城工場（愛知県新城市）、大阪工場（大阪府東大阪市）、パイプ工場（愛知県新城市）、建材工場（茨城県筑西市）、横島工場（同）、東京営業所（東京都台東区）の、全国10事業所に約1,100名の従業員が勤務しています。



左上：新城工場（400t大型ロボットライン（9連））
左下：上野原工場（パンチ・レーザ複合加工機）
右上：小山工場（大型成型工場）
右下：玉戸工場（パンチ・ファイバーレーザ複合加工機）

弊社は、事業所ごとの独立採算制を採用しています。毎日、各事業所から日報の提出を受けており、本社では、売上・仕入や従業員の状況を確認しています。

また、毎月月末には、各事業所の1ヶ月分の売上・仕入の集計の提出を受け、月次の実績を確認しています。そして、必要に応じて各事業所長と連絡を取り合い、取引先の状況確認を行うなど、密な連携を図っています。

■ 社長自ら各事業所に出向いて現場を確認

毎月月初には、各事業所で全体朝礼を行っています。私も可能な限り各事業所に出向いて朝礼に出席し、経営状況などを従業員に直接伝達しているほか、製造現場の生産活動の状況や安全面の確認も行っています。

また、2ヶ月に1度、各事業所の責任者が出席する会議を開催し、現在の仕事の状況や今後の生産活動や改善活動、新規のお客様への対応などを話し合っています。



ユニット組立部門

現在、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大している地域の事業所の責任者は、オンラインで参加していますが、感染がおさまり次第、全員集まって会議を行いたいと考えています。

1,100名の従業員の能力や技術力をどのように把握・管理されているのかお聞かせください。

■ 従業員一人ひとりと向き合う時間を大切に

各工場には「個人別の経歴リスト」や資格などの「取得リスト」、スキルアップのために1年単位で毎年実施している「個人別目標値の達成率」などが管理されています。

私は、それらの資料と各工場の責任者の意見に加え、従業員との直接のコミュニケーションから、個々の能力や技術力を把握するように努めています。

そのため私は、時間の許す限り現場に向かい、従業員一人ひとりと会話を交わしています。これは、モチベーションアップも目的としています。



大型プレス部門



金型製作部門

貴社ではどのような人材育成を行っているのかお聞かせください。

■ 充実した社内外の技術・事務研修

弊社では、従業員一人ひとりがその資質と能力を最大限に発揮し、業務に活かせるよう、社内研修や社外研修、資格取得、通信教育などの人材育成の取り組みを定期的に実施しています。

新入社員においては、入社前に内定者集合教育（外部研修機関でビジネスマナーセミナーの受講）を実施し、広沢グループ合同入社式の後は、3日間の広沢グループ新入社員集合教育と各事業所における入社日研修を実施しています。

さらに、入社後6ヶ月間のスケジュールで行う技術研修や事務研修などと、配属先ごとに行うOJTを組み合わせて、新戦力の早期育成を図っています。

入社2年目以降については、入社2年目研修、入社3年目研修、中堅社員研修、管理職研修などを行っており、従業員の定期的なスキルアップや専門的な知識・技能の習得、ライセンスなどの取得を促進しています。

■ 人材育成が事業の健全な発展に繋がる

業務に必要なライセンスの取得については、講習や試験の都度、費用の全額を会社が負担しています。また、従業員の自己啓発を支援するため、通信教育などの費用の補助も行っています。

これらの制度により、従業員は、専門的な技術や知識、各種技能のノウハウを着実に身に付けています。また、固有技術の蓄積と伝承、生産性向上と業務効率化に向けた手法を各工場で開催し、適正な利益確保に繋げることで、事業の健全な遂行と発展を実現しています。

時代の変化の中で、柴田社長はどのような人材が必要だとお考えでしょうか。

■ 「人間本来の素直さ、正直さ」を重要視

少子高齢化社会の影響により、学校を卒業後、製造業に就職する学生は年々減少しています。しかも、就職希望の学生には、依然として大手企業への志向が根強く、私たちのようなモノづくりの中小企業では、人材の確保が大変厳しい状況となっています。

時代の変化とともに人の性質も変化しているように感じていますが、私が一番重要視しているのは、その人の持つ「人間本来の素直さ」です。

自己の努力と向上心に加えて、第三者である私たち指導者のアドバイスや激励により、日々たくましく成長することのできる素直な人間性が、何より重要だと感じています。

知識や学歴、見かけだけではなく、根本的な人間臭さ、言い換えれば「素直な正直さ」を持ち合わせている人と出逢い、何十年も共に働き、最後に「この会社に来て良かった」と思ってもらいたい、というのが私の理想です。



三次元測定機検査作業の様子



プレス品梱包作業の様子

■ 能力や技術を存分に発揮できる環境づくり

私は、個々人が持っている若く斬新な発想、潜在的な能力や技術を惜しみなく存分に発揮してもらうこと、また、新たに身に着けた能力や技術は全部出し切ってもらうことを望んでいます。

そして何よりも、やる気のある従業員には、適切な評価をしたうえで、新たな起用や積極的な登用を行い、適材適所の配属先で大いに活躍してほしいと考えており、それができる体制、組織を作ることが、私の務めだと考えています。

市場環境の変化と、それに対して準備されていることをお聞かせください。

■ 直近は順調だが中長期的な懸念あり

市場環境は、新型コロナウイルス感染症のパンデミックによって不透明な状況が続いていますが、海外市場は急激に回復してきています。特に工作機械、装置関係などの海外向けが順調です。

また、国内の各メーカーは、海外のロックダウンや混迷するサプライチェーンの影響緩和のために国内調達への切替えを検討するとともに、危機管理や将来環境を見据えて、国内の有力取引先との関係強化を模索しています。

一方、中期的にみると、中国の政策転換や米中対立などが世界経済に及ぼす影響が不透明な中で、各メーカーが増産体制を敷いているため、在庫過多による失速などが懸念されます。また、長期的には、日本からモノづくり企業がさらに少なくなるという事態を懸念しています。

■ 「廣澤精機製作所ワンチーム」で乗り切る

市場環境がめまぐるしく変化し多様化する中で、企業には、その変化を「チャンス」と捉え、スピード感を持ってあらゆる変化に対応しながら、事業を前に押し進める力が求められています。

弊社は、「廣澤精機製作所ワンチーム」となり、いかなる状況でも各事業所の柔軟で迅速な対応力とアイデアを結集し、最高の力を発揮できるよう準備しています。

また、私自身も、各事業所の内容をより深く理解して統率・管理し、お客様が困っている時にこそタイムリーなご提案でお役に立てるよう準備しています。



ファイバーレーザー溶接部門

柴田社長がお考えになる「近い将来、伸びていく事業・分野」についてお聞かせください。

■ 農業分野の課題を解決する「アグリテック」

農業分野は高齢化や後継者不足による就業人口の減少や耕作放棄地の増加などが問題となっています。この問題を解決するために、農業とITテクノロジーを掛け合わせた「アグリテック」の取り組みが盛んになっています。

アグリテックは世界中で導入、研究されており、作業の自動化や生産量の向上など、様々な効果が現れてきています。アナログなイメージが強い農業分野ですが、その分ITテクノロジーによる改善余地は大きく、これからの成長が期待できます。

■ 業務領域が広がる「産業用ロボット」

産業用ロボットにも注目しています。その年間販売台数は世界的に増加傾向にあり、アジアやヨーロッパでは、高騰する人件費に代わる生産力として期待されています。

近年、産業用ロボットの小型化や低価格化が進み、人と一緒に作業できる「協働ロボット」も普及したことで、中小企業でも産業用ロボットを導入しやすくなりました。そのため、これまで自動化が進まなかった業務領域にも広がってきています。



トランスファープレス作業の様子



旋盤作業の様子

「SDGs」の実現に向けた取り組みについて お聞かせください。

■ 誰一人取り残さない「会社」づくり

弊社は地元採用を継続して行っており、毎年60名の新卒者を採用するほか、障害者も積極的に雇用し、地域に貢献しています。

SDGsの最大の目標は、「誰一人取り残さない」社会の実現ですが、私は弊社を、「すべての従業員が安心して働ける職場」「社会人として成長できる職場」「定年まで働いてもらえる職場」づくりを通して、すべての従業員の生活が守られ、「この会社に勤めて良かった」と言ってもらえる会社になりたいと考えています。

■ すべての従業員に健康と安全を

従業員の健康管理のために、健康診断項目の充実や二次健診費用の全額会社負担、インフルエンザ予防接種費用の全額会社負担などを実施しています。

2020年（令和2年）には、「いばらき健康経営推進事業所」に認定されました。また安全な職場づくりのため、従業員の作業負加軽減のための積極的な安全衛生活動や改善活動、改善提案表彰制度を設けています。



ラジオ体操（空撮・筑波工場）

すべての従業員に健康で安全に働いてもらうためのこうした取り組みは、SDGs目標3「すべての人に健康と福祉を」につながるものだと思います。

また、福利厚生として、従業員の高校生以上の子弟に支給する返済不要の奨学金や永年勤続表彰、下館ゴルフ倶楽部やパークゴルフ場、廣澤美術館、ロッジ・ドームハウス宿泊施設などの広沢グループが運営するレジャー施設の優待利用や輸入車購入割引などの充実した制度を設けています。

■ 働きやすく成長できる職場づくり

住環境整備としては、寮・社宅の完備、従業員の賃借家賃の半額補助を行っています。子育て中の親が安心して働くことのできる環境づくりとしては、「ヒロサワ・シティこども園」を利用した保育や預かりサービスの提供など、会社が全面的にバックアップしています。

従業員一人ひとりが、働きやすい環境の中で仕事にやりがいを感じ、協力し合い、成長できる職場づくりにも注力し続けることで、SDGs目標8「働きがいも経済成長も」の実現を目指します。



部品検査作業の様子

■ 効率的な生産とエネルギー消費

弊社はモノづくりの会社ですから、日々生産活動を行う「つくる側」でありながら、その活動において電気やガスなどのエネルギーを消費するため、「つかう側」でもあります。

SDGs目標12「つくる責任・つかう責任」と目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」に関する取り組みとして、持続可能な生産消費を確保するため、工場生産される廃プラスチックの再生利用などによる廃棄物の削減、リサイクル率の向上を推進しています。

また、効率的な生産を進めるため、毎年、最新鋭の設備投資を実施しています。各機械設備の「省電力化」「自動化」「画像化」のほか、事業で使用する電力量の監視・調整を通じて、消費電力量を計画的に調整する仕組みである「デマンドコントロール」などの機能を駆使することで、エネルギー消費の削減に取り組んでいます。

加えて、照明設備、空調設備なども継続的に最新のものに更新していくことで、省電力化を進めています。今後は、再生可能エネルギーの導入なども検討していきたいと考えています。

社長の会社への想いや今後の展望などについてお聞かせください。

■「総合力」と「汎用性」で事業を未来に

弊社が作る約1万種類の部品は、様々な機械装置に組み込まれ、世界中で使われています。従業員も約1,100人まで増えましたが、私は弊社を地域とともに育ってきた「稼業」だと思っています。

この「稼業」を継続、発展させ、従業員や環境を守っていくことが、地域の持続可能性を高めることにつながることから、弊社の事業活動自体がSDGsを達成するためのアクションであると思っています。

また、弊社の最大の強みは「総合力」ですが、もう一つの大きな強みとして「汎用性」があります。弊社の設備と技術は特定の分野に特化していないため、市場の変化に対応しやすい、持続可能性の高い事業となっています。



金型工場（新設）

例えば、車がすべて電気自動車になると、ガソリンエンジンに特化した企業は事業を転換しなければ生き残ることができませんが、弊社は電気自動車の部品を作れば良いので問題になりません。むしろ変化が起こるほど、汎用性の高い弊社にとっては受注拡大のチャンスとなるのです。

そのため、常に技術を磨き続けるとともに計画的に最新の設備に更新していき、お客様のあらゆるご要望に対応し続けてまいります。これこそが弊社らしさであり、最大の事業戦略です。

これからも地域とともに成長を続け、地方に居ながら世界の動きに素早く対応する、人と技術と設備の「総合力」で日本のモノづくりをリードする企業であり続けたいと願っています。

**この度は、長時間にわたり貴重なお話をお聞かせいただき、誠にありがとうございました。
御社の今後益々のご発展をご祈念いたします。**



工場見学の様子



インタビューの様子